

名取の史跡をめぐる旅

名取市郷土史研究会

名取市郷土史研究会（以下、郷土史研）は、名取の文化財・歴史遺産を調査・記録し、名取の文化発展に貢献することを目的に1985年に発足し、今年で30周年を迎えます。名取市民の郷土史への関心はとても高く、当初17名からはじまった郷土史研には、現在100名を越す会員が在籍しています。

郷土史研の設立以来のモットーは、「老若男女問わず誰もが参加でき、見聞を広げて、楽しく活動すること」です。一人ひとりの楽しみや探究心を掘り下げていけるのが、郷土史研の一番の魅力です。

「会報なとり」と『郷土なとり』

郷土史研では、名取に縁のある遺跡に足を運んだり、名取の歴史に詳しい講師を招き先祖の文化遺産を一緒に紐解いたり、様々な活動をしています。なかでも「歴史探訪バスの旅」や名取の身近な遺跡をめぐる「現地踏査会」は、毎回30～40人が参加する人気の企画です。

盛況の歴史講演会



これらの活動で得られた成果は、刊行物として定期的に発行しています。

「会報なとり」には、会員向けに日々の活動の様子を、『郷土なとり』では、建造物から有形・無形民俗文化財などの多岐にわたる史跡探訪や調査結果をまとめています。特に、『郷土なとり』は、東北地方最大の前方後円墳である雷神山古墳

をはじめ、熊野三社にまつわる全国的にも有名な名取老女の伝説などを豊富な史料、図や地図などで紹介する、200ページに及ぶ大作です。

様々な歴史探訪へのトビラ

「歴史とは過去と現代の美しい対話です。『郷土なとり』などの刊行物や、郷土巡りなどの活動から歴史探訪の魅力を伝えていきたいです。また、名取の史跡を子供達の体験教育に活用しながら、名取のまちづくりにも取り組んでいきたいと考えています。」と理事の水戸さんは楽しそうに話します。



熊野三山の参詣

郷土史研の活動は更に広がり、名取市が姉妹都市提携を結ぶ、熊野古道で有名な和歌山県新宮市との官民共催文化交流事業では実行委員を担いました。

また、今秋9月には、発足30周年記念イベントも予定していて、多くの方に参加してもらおうと、その準備を始めています。

会長の國分司さんも、「これらの活動を通して名取市の郷土史を豊かに育み、地域文化の発展、ひいては観光や産業、社会資源の醸成にも協力していきたいです。」と意欲的です。

名取市郷土史研究会

〒981-1225 名取市飯野坂 1-8-13

TEL/FAX : 022-384-4950 (水戸)